

いたやなぎ 町議会だより

令和2年
3月定例会

第25号
2020.5.8



主な内容

- 7人が一般質問 P 2 ~ 8
- 常任委員会審査 P 9
- 予算特別委員会 P 10 ~ 11
- 一目で分かる審議結果 P 12 ~ 13

板柳高校最後の入学生であり、最後の卒業生となる三浦陽奈さんに夢を語っていただきました。

現在、ギター部に所属している三浦さんは、ドレスが好きで、将来はウエディングコーディネーターになるため、専門学校への進学を希望し、日々励んでいます。

板柳町の夢進人！

～夢はウエディングコーディネーター～

板柳高校1年生 三浦陽奈さん

町民の声を町政に

第1回定例会一般質問

第1回板柳町議会定例会が3月16日から25日までの日程で開催されました。3月18日に行われた「一般質問」に、7名の議員が登壇し質問しました。

一般質問は、議員の日常活動と町民の声や議員自身の考え方をもとに町長や教育長などの方針を問うものです。

板柳町議会では、1人60分の制限時間があります。議会だよりは、スペースの都合上、一人1ページ相当の文章量までとし、質問と答弁が要約してあります。臨場感ある本会議場での傍聴をお待ちしています。



成田 肇

町財政運営

問

未来につなげる産業づくり、住みたいと思えるまちづくり、地域で支える家族づくり、みんなで取り組む健康づくりの4つの柱を軸に、町財政運営に取り組んでいるが、その成果と今後の取組について伺います。

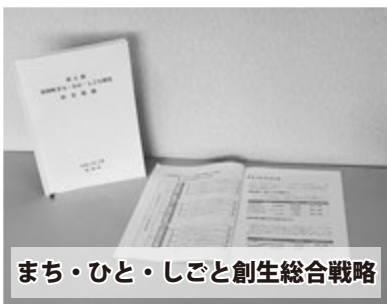
答

(成田町長) 平成27年に板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、4本の柱を戦略に掲げ、各種事業の取組を進めてきた。未来につなげる産業づくりにおいては、ふるさとセクターのりんご加工開発館を新しく整備し、当町の6次産業化の拠点施設として活用し、農家所得の向上を目指している。住みたいと思えるまちづく

くりにおいては、全町の下水道整備を進めているほか、流融雪溝の整備や消防庁舎の新築など、安全で安心して暮らせる快適なまちづくりに取り組んでいる。

地域で支える家族づくりにおいては、子ども医療費の無料化を中学生まで拡大したほか、子育て世帯が住宅を取得した場合の固定資産税の助成や新婚世帯の住居費助成を実施している。みんなで取り組む健康づくりにおいては健康宣言大会を開催し、町ぐるみで健康寿命のまちづくりを目指している。

今後においても、各種事業の取組をさらに加速させ、人口減少や地域活性化に取り組んでいきたい。



まち・ひと・しごと創生総合戦略

人口減少対策

問

人口減少克服に向けた町長の基本的な考え方について伺います。

答

(成田町長) 町では人口減少対策を最重要課題に掲げており、

町の施策も人口減少のスピードを少しでも緩めるためのものとなっている。新年度からは若者夫婦定住応援事業を新たに創設する。また、学童保育の時間を現行の午後6時から午後7時まで延長するほか、保護者の負担を月額3,000円から2,000円に減額し、引き続き子育て世帯を応援していく。

各公園の整備

問

アップルモールを含む我が町の公園などの遊具の管理、点検は万全か。

答

(成田町長) 平成30年4月施行の都市公園法改正により、遊具の定期点検の法令化、厳格化されたことを受けて、町では国が認定登録した点検技術者資格の有資格者によ

る定期点検を民間委託により年1回実施しているほか、担当課による月1回程度の日常点検を行っている。定期点検の結果により安全基準等に適合しない施設については、修繕または廃止を行うこととし、安全性の確保を図っている。

問

環境美化に対してどのような対策をお考えか。

答

(成田町長) 地元町内会やボランティア団体のご協力をいただきながら、除草作業や清掃活動などを毎年度実施している。

新年度においては岩木川河川公園の樹木の剪定工事を昨年度に引き続き予定しているほか、中央アップルモールの案内説明板の補修を計画的に行う予定である。





今 浩一

新型コロナウイルスに係る町の対応

問 新型コロナウイルスの感染拡大が問題視されている中、町の対策・対応はどのようなになっているか。

答 (成田町長)

町では、2月28日に板柳町新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、小中学校の一斉休校をはじめ、学童保育の平日開設、町主催の各種行事の延期や中止、公共施設利用者への注意呼びかけ、さらには板柳中央病院入院患者の面会制限、町民への情報提供など、様々な対策を講じた。

問 学校休校措置は対策本部設置前に決定したと聞いているが、現在要綱が設置されており、今後は設置要綱と学校休校措置の考

え方がリンクしていくのか。

答 (成田町長)

小中学校の休校について、28日の早朝、教育長から小中一斉休校の相談があったが指示をして連携を取っていた。もちろん今後は情報を共有しながらリンクさせるべきと考えている。

人口減少対策

問 人口減少対策に関しての政策、事業の取組に対し、その成果を問う。

答 (成田町長)

子育て世代の定住を促す事業として、子育て世帯定住サポート事業を平成28年度から実施している。これまでに15件の実績があり、49人が町外から転入した。

また、新たに住宅を取得した子育て世帯に対し、取得住宅に係る固定資産税相当を助成する子育て住宅取得補助金を平成29年度から実施しており、これまでに21件の実績がある。さらに、新婚世帯に住居費の支援も行っており、その事業として新生活生活家賃補助金や結婚新生活支援事業費補助金の2つを合わせ

て、17件の実績があり、21人が町外から転入した。
要望 板柳町の独自の目玉となる人口対策案の検討をお願いしたい。

町所有の未水洗化施設

問 公共下水道計画内にある町所有の未水洗化施設はどのくらいあるか。

答 (成田町長)

流域関連公共下水道計画の区域内においての町所有の未水洗化施設は、旧畑岡小学校、旧板柳第二小学校、上下水道課事務所、掛落林地区の農村公園、ふるさとセンター敷地内の管理棟、コテージ、乾燥処理施設等の各施設のトイレについては、単独処理浄化槽で処理している。また、双葉団地、旧商工会敷地内の住宅、消防団の屯所5か所において、くみ取り式トイレとなっている。

問 公共下水道計画を行う上での目標は。

答 (成田町長)

公共下水道について、向こう10年間で全町区域を下水道に接続していきたい。

問 未水洗化施設は、各地区にあるが今後水洗化していく考えなのか。

答 (村上副町長)

流域公共下水道の整備が完了した場合、3年以内に接続しなければならず、それ以降に延ばすことは考えられない。

問 消防団の屯所は現在接続されていない。13年間のうちに消防の屯所も水洗化する認識で良いか。

答 (村上副町長)

農業集落排水事業については3年以内に接続するという強制的なものはない。

問 逆を言えば、公共下水道地区内に入っている屯所であればやるという解釈で良いか。

答 (村上副町長)

公共下水道の範囲内であれば、それは当然のことだと思ふ。

アクセス道路

問 ふるさとセンターへのアクセス道路計画の進捗状況と今後の予定は。

答 (成田町長)

現在、コンサル会社に計画の策定をお願いして

り、年度内には報告書が完成することになっている。今後は、計画の内容を議会に説明し、ふるさとセンターの活性化のため、議員の皆様と協議を進めたいと考えている。

問 人口対策や下水道整備事業、今後板柳消防署建設や、さらに小学校統合問題、役場庁舎、板柳高校問題や老朽施設の検討など、財政に影響する課題が山積みの中、一度このアクセス道路計画を白紙撤回することも検討してはいかがか。

答 (成田町長)

もちろん生活道路整備事業を含め事業は大事であり、必要である。当町の観光振興の観点で、どうしてもふるさとセンターを活性化させることが私の考えである。元のように利用客数を増やすためには当然道路がネックになっていると思う。町の商工業の振興に何をやるたらいのか、議員の皆様と時間をかけて話し合っていきたい。



成田 陽光

交通網の整備

問 現在田舎から町なかに来て買物をするなど、田舎に住んでいる方々の交通網の整備について、現段階で計画されていること、もしくは今後の考えをお伺いする。

答 (成田町長) 今後町が何らかの移動手段の対策を検討するとしても、どのような手段がよいのか考えたい。例えば板柳五所川原線のように、バスを運行しても利用者が極端に少なく、路線廃止された例もあるので、どのような形態が利用者のニーズに合うのか、さらに調査研究を進めたいと思う。

問 地方公共交通網形成計画が昨年末に自治体の策定が任意から努力義務に変更になった。路線バスが

ら自治体が計画した小規模バスやタクシーの利用について、配置計画を置くようにとの骨子になっていった。少しでも町のほうで計画すれば補助金なり活用できることが国交省から出ているかと思う。計画をこれから進めていく上で、そういう制度がある中で、町長の考えを再度お伺いする。

答 (成田町長) 町単独でやると財政的にかんがりの負担が予想される。例えば国の買物弱者対策事業等があり、あるいは町村が連携して広域的にやる方法も考えられると思う。いろんな方法を含めて、今後調査研究をしていきたいと考えている。

ら自治体が計画した小規模バスやタクシーの利用について、配置計画を置くようにとの骨子になっていった。少しでも町のほうで計画すれば補助金なり活用できることが国交省から出ているかと思う。計画をこれから進めていく上で、そういう制度がある中で、町長の考えを再度お伺いする。



ICTの推進

問 今般のコロナウイルスの影響により、国からもテレワークや在宅勤務が推奨され、実現するために会社の社内の勤務体制のクラウド化が広がって初めて可能だと認識している。私自身も、ある会議がオンライン上でウェブ会議になり、簡単な会議ならこれぐらいで十分だと感じた。

ただ、家にWiFi環境が整っていない参加者は会議に参加することができないことや、参加者の表情が分かりづらいなどの問題点が分かり、今回のコロナウイルスの流行を機に、ウェブ会議のほうも普及していくのではないかなと感じた。

今まで以上に自治体においてICT(※)の推進が重要度を増している。具体的には、自治体の情報のクラウド化の検討や庁内におけるオンラインシステムの統合など、現在のICTの導入状況と今後の計画、または過去に検討したことなど、ICTの活用についての考えをお伺いしたい。

答 (成田町長) 当町において、基本的に全職員がICTを活用した業務に携わっている。今後においても、行政の簡素化、効率化をさらに推進するためには、各種申請、届出など行政手続のオンライン化をより拡充し、行政サービスの向上に一層努める必要があると考えている。

全国的に市町村においては、電子決裁やペーパーレス化に取り組んでいる自治体もあるが、費用対効果等も踏まえながら、今後も調査研究を進めたいと考えている。

問 住民票を最初からオンラインで申請しておき、行ったらすぐ受け取るなど、住民サービスにつながるべく、部分でもある。また、町民との対話に時間を振り分けしていくためのICTの推進だと思っている。そこで、ICTの課題の重要度について伺いたい。

答 (成田町長) クラウド(※)関係は、津軽広域圏でやっており、板柳も加入するというところで、担当課のほうに指示を出して今準備を進めている。町のICTの活用は、行政

の簡素化、効率化が図られ、住民サービスにもつながっていく。そのようなことをこれから内部で検討していきたい。

問 莫大なお金がかかると思うので、今から庁内のICT化について、検討委員会でもいいので、いろいろ考えて進めていっていただきたいと思うが。

答 (成田町長) ICTを活用した行政の推進は常に考えている。どのような事が適切か、今後も大きな課題として進めていきたい。

要望 ICT化を進めたおかげで業務が効率化され、その分を住民やいろいろな方と話す時間に充てていくという意味でもICT化の推進は必要だと思っているので、今後とも継続的なご検討をよろしく願います。



(※) ICT: 通信技術を活用したコミュニケーション Information and Communication Technology の略
(※) クラウド: インターネット上にあるデータやソフトウェアなどを、それがどこに存在するかを意識することなく使える環境や利用形態

町民の足確保



だが、今年4月から役場前についても停車箇所に加える方向で現在検討を進めている。運行時間など、病院などで時刻表を配布しているほか、病院のホームページでも確認できる。

問 田舎に住む高齢の皆さまから、買物や病院への交通手段の不便さについての相談があり、その必要性を感じている。今後近隣町村とも連携して調査研究するという前向きな将来展望を話していただいた。これについて、新たに考えたことがあれば答弁いただきたい。

答 (成田町長) これまでも板柳中央病院の患者送迎バスの利用が可能である旨をお伝えしてきた。1日2路線の往復を運行しており、途中下車できることから、町民の皆様には上手にご利用いただいている。

また、利用者の利便性を高めるため、昨年から町公民館前を停車箇所追加し



問 学校のバス、病院のバス、買物のバス、それらを総合的に考えて、田舎でもずっと住み続けられるような体系づくりをすれば、みんなが住みやすい町になるのではないかと思ってい

答 (成田町長) 例えば、地域の人たちが連携して、買物してお年寄りの方にお届けするといった、地域のコミュニティ活動が大事だと思う。バスのハード面と、地域の意識を高めるソフト面の両面を考えていきたい。

が、今年4月から役場前についても停車箇所に加える方向で現在検討を進めている。運行時間など、病院などで時刻表を配布しているほか、病院のホームページでも確認できる。

問 バスの時刻表もおのずと分かるようにするの

答 (八木橋病院事務長) バスの時刻が認知されていないので、運行経路の町内に、時刻表を配布するよう行政連絡員に協力をお願いして、周知に努めたい。

議会議員一般選挙

問 2月16日に行われた町議会議員の一般選挙の投票率、4年前の選挙の投票率、併せて、期日前投票率は何%であったか。

答 (葛西選挙管理委員長) 投票率は61.42%で、28年度は、65.94%で、4.52%減である。期日前の投票率は16.49%であった。内訳は男性が302名、15.04%、女性が1,134名、17.69%であった。

28年度の期日前と比較すると、300名ぐらい増加している。

問 4年前は午後6時までの投票時間であったが、今回午後8時までにした理由は。

答 (葛西選挙管理委員長) 4年前は、午後6時から午後8時の時間帯は投票所に来る人が非常に少なく、開票時間を早めるために午後6時までにした。

問 今後投票率を上げるために、期日前投票は1階に持ってくるべきではないかと思う。2階でなければならぬ理由はあるか。

答 (大井総務課長) 次の選挙前に、選挙管理委員会のほうで1階でできないか、実現に向けて話し合いを持ちたい。



議会を傍聴しませんか

次の定例会は6月です

<議会日程のお知らせ(予定)>

月日	内容
6月5日(金)	本会議 特別委員会報告等、提案理由の説明
6月8日(月)	本会議 一般質問
6月9日(火)	常任委員会 総務産業厚生・福祉建設文教
6月10日(水)	本会議 委員長報告等、質疑、討論、採決

※開催時間はいずれも午前10時です。

傍聴者名簿に住所、氏名、年齢を記入していただければ、どなたでも本会議を傍聴することができます。なお、傍聴できる人数は51人となっております。





長内良蔵

公共施設建替

問 町の小学校を含む公共施設で老朽化や耐震の問題で建て替えを進めるべきものが多いと考えるが、今後の対応についてどう進めていくのか。

答 (成田町長)

施設の整備に当たっては、国の補助事業や国の有利な緊防債、過疎債を活用するなど、町の持ち出しを極力抑えて、健全財政を堅持しながら整備を進めている。今後においても、国の補助事業など有利な財源を確保しながら、緊急性や必要性を十分考慮し、優先すべきものを優先し、財政状況に留意して対応したい。

ていると思うが、どのような形で小中一貫校のほうに持っていくのか伺いたい。

答 (成田町長)

統合していくことは考えられる。あるいは将来的な小中一貫教育、これは前回の検討委員会の中から出てきたことであり、町でも尊重していかなければいけないと思っている。しかし、教育委員会の意見も十分に取り入れて、やっていかなければならないと考えている。

答 (成田町長)

今年度耐震調査をしたところ、震度6以上であれば、倒壊まではいかないが、耐力度調査に引っかかっている状態である。

問 現消防庁舎の活用方法を伺いたい。

答 (成田町長)

全部ではないが、町の公用車の車庫に当面は使いたいと考えている。

問 消防庁舎の隣に郷土資料館がある。資料館の中にあるものを換気の良い場所でも保管するためにも、消防庁舎を活用できればよいと考えているがいかがか。

答 (成田町長)

消防庁舎の2階に多くの部屋がある。そこを保管庫代わりに使う方法もあるので、検討させる。



問 建物の中で懸念しているのが役場庁舎、体育館、図書館、郷土資料館である。地震が来た場合、役場はどうなるのか。

懸念しているのは、役場庁舎、体育館、図書館、郷土資料館である。地震が来た場合、役場はどうなるのか。



板柳町立郷土資料館

板柳高校校舎

問 県立板柳高校が3年後歴史を閉じることになるが、その後の校舎について県からの話はあるのか。また、町として今後について計画を進めているのか。

答 (成田町長)

板柳高校は令和3年度から募集を停止し、令和4年度末で閉校となるが、県からは閉校後の校舎施設の活用についての話は来ていない。現在も学校施設として利用されており、県から具体的な話がない状況で、町の計画についてお話しするのは適切でないと考えている。

問 体育施設、資料館、図書館、もしかしたら役場としても使えるかもしれない。もう3年後ではなくて、あと何年もない。本当に県から全然話はないのか。

答 (永澤教育長)

県のほうの事務局では次のような3段階のお話をしていた。まず、県の建物なので、県の中でまず使うかを確認する。

県で活用しないとなったときに、その該当する町村のほうにどうかという話をする。

それでもない場合は、市町村以外に活用する企業等に持っていくとのことだった。時期的なものについては、現在は明確に出すことはできないとの話であった。

問 弘前の廃校になった小学校をりんご業者で使っているのを知っている。県で使わなくなり町に話が来た時に、役場も含めて活用できるのであれば考えていただきたい。

答 (成田町長)

耐力度調査も基準をクリアしている。校舎、運動施設が整っている。そういった意味で、大変魅力ある施設だと考えている。



板柳高校校舎



鈴木清孝

高齢者独居世帯の福祉対策

問 高齢者独居世帯の福祉対策として、ひとり暮らし高齢者無料入浴券配布の事業はいつ頃から創設し、事業の主たる目的、年度ごとの実績と成果等は。

答 また、今後の対応について、町長の考えを伺いたい。

(成田町長)

平成3年度から実施している。平成30年度の実績は、ひとり暮らし高齢者529人に対して20回分の入浴券を配布し、利用率は約70%、事業費は295万5,000円である。

今後においても、高齢者の健康づくりと老人福祉の向上に取り組んでいきたい。

問 例えばひとり暮らしで、自分の家庭の風呂に入

る方や、町内の浴場施設の温泉の泉質が合わず、町外へ行っている方も多々あるという話である。そのような方々にしてみれば、その券を配布してもらえば、同等でも構わないので、タクシーの利用券として使えるようにしてほしいという声が多くある。用途をもう少し時代に合ったものに緩和して、利用者の利便性を高めていくことに対処できないか。

答 (成田町長)

入浴券以外にどういったものがあるのか、目的は高齢者の健康維持と福祉の向上であるので、その中で収まるような事業であれば可能だと思うので、内部で検討する。

町職員の人材育成

問 新年度における町職員の構成比率、今後の職員の人材育成並びに研修計画をどのように進めていくのか伺う。

答 (成田町長)

職員(※)の年齢別構成比は、10代と20代を合わせ22%、30代が24%、40代

が32%、50代が19%、60代の再任用職員が3%である。

今後の人材育成並びに研修計画について、新年度においては、職員自らがグループをつくり、それぞれ研修テーマを設けて、国内先進地の視察研修を通して、職員の視野と見聞を広げていただき、職員の資質能力の向上と職場の活性化につなげていきたい。

問 再任用される職員の皆様もこれまで積み重ねてきたキャリアなどがあると思う。職員研修の講師役としても活用して、後輩職員の人材育成に活用していくべきだと思いがいかか。

答 (成田町長)

若手職員の研修の講師となつてはいかかかと、そういう考え方もある。いろんな活用方法を考えていきたい。

基幹産業対策

問 基幹産業であるりんごの振興においては、農作業従事者の高齢化や後継者不足が重要課題となっており、生産面での体制強化が必然となっている。重要課題を克服するための今後の対策と今後の対策について伺う。

答 (成田町長)

後継者対策として、まるかじり塾の研修をはじめ、県りんご協会主催のりんご産業基幹青年養成事業の研修や、新規就農者に対しては研修資金や住宅賃貸料、農地賃借料の各補助制度を設けているほか、農業次世代人材投資事業を活用しながら、後継者の育成、確保に努めている。

これまでの事業を継続しながら、今後においても国、県など関係機関からの情報収集に努め、農家の皆様に適切な情報提供を行いながら、課題克服に向けて努力していきたい。

問 ここ数年間のりんご生産における新規就農者数と農作業補助者の登録者

数について、分かっていたら教えていただきたい。

答 (田澤産業振興課長)

新規就農者の補助制度が、平成24年度からスタートして、令和元年度までに35名の方が活用して、農業に従事されている。

補助者の人数について、担当課としてそこまで細かい情報を持っていない。

問 従事者に外国人を活用しているところもある。また、大学の留学生に農業のアルバイトをやっているという話も伺っている。そういった組織づくりを早急に組み立てていくのが大事ではないかと思うがいかがか。

答 (田澤産業振興課長)

関係する機関、様々あると思うので、理事者を含めて相談を進めていきたい。





松森 俊逸

長期振興計画

長期振興計画策定委託料として、当初予算に842万円が計上されている。どのような委託先を想定しているのか。

町に指名願を提出しているコンサル会社の中から実績や豊富なノウハウを備えている業者を入札により選定したい。

当初予算の説明会において、第6次長期総合計画を策定し、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、各分野の取組を進めるとあるが、相関関係はどのようになっているか。

現在策定中の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略は令和2年度より計画期間がスタートし、第6次

長期振興計画は、令和3年度より計画期間がスタートする予定となっている。それぞれの計画の期間が前後することから、第2期総合戦略にその内容を反映させることが可能となるので、必要に応じて見直しを行うこともできると考えている。

パブリックコメント募集期間は3月6日から3月19日の2週間であるが、この期間は妥当であるか。

都市計画法による都市計画案の縦覧期間を参考に設定している。

パブリックコメントは来ているのか。仮に今回パブリックコメントがゼロの場合はどうするのか。

現在意見はない。意見がなかった場合は、これが最終案となると考えている。

公共施設整備計画

公共施設整備計画とは、本来公共施設等の老朽化や人口減少等の状況を踏まえ、公共施設等の全体の状況を把握し、中長期的な視点を持って更新、統廃合、

長寿命化などを計画的に行うことよって、町財政負担の軽減や平準化、そして公共施設等の最適な位置の実現を目指すことが目的であり、自治体のまちづくりの実質的な最上位計画になるものだと考える。このことについてどのような認識を持っているか。

町の最上位計画としての位置づけではなく、町の各種計画との整合性を踏まえながら、施設の整備に当たってはこういった対策が町にとって適切であるかの判断を行うための基になる計画であると考えている。

人口ビジョン

板柳町人口ビジョン(2020年改訂版)が3月策定予定として、町ホームページに公開されているが、まちづくりの基本中の基本ファクターである人口ビジョンの改訂について、議会に説明しないのはなぜか。

平成30年3月議会で質問したが、当時の国立社会保障・人口問題研究所の2060年予測値5,719人に対して町の人口ビジョンは8,710人で、その差はおよそ3,000人であった。今回の国立社会保障・人口問題研究所の改訂版では予測値3,719人で、その差は2,000人である。

今回町当局が示す目標値は5,226人で、国立社会保障・人口問題研究所の予測値の140%である。私は、もっと現実的な目標値を定めるべきと考えるが、所見を伺う。

ジョンの策定工程において、有識者会議や住民意見をいただいた上で、計画案を議会に説明することを考えている。

平成30年3月議会で質問したが、当時の国立社会保障・人口問題研究所の2060年予測値5,719人に対して町の人口ビジョンは8,710人で、その差はおよそ3,000人であった。今回の国立社会保障・人口問題研究所の改訂版では予測値3,719人で、その差は2,000人である。

今回町当局が示す目標値は5,226人で、国立社会保障・人口問題研究所の予測値の140%である。私は、もっと現実的な目標値を定めるべきと考えるが、所見を伺う。

国から配付された推計ソフトにより推計している。2つの仮定条件のうち、1つは合計特殊出生率で、これは国、県と同じ目標値である2030年に1.8%、2040年に2.07%を採用している。もう一つの仮定条件は社会増減で、こ

れも県の条件と同様に設定している。前回の人口ビジョンでは2060年の目標人口は人口問題研究所の推計値の152%であったので、比率は多少縮まっていた。今回掲げた目標人口に向けて、あらゆる対策に一生懸命地道に努力していくことが大事だと考えているので、ご理解いただきたい。

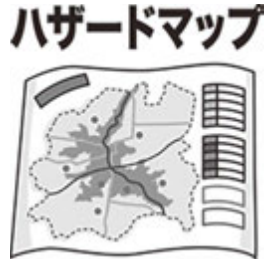
人口ビジョンの数字、5,226名について、案として決める手順が荒削りだと思う。もう一回担当課長から説明を聞き、これをクリアするためには特殊出生率をきちんとヒアリングしたほうがいいと思うが。

人口ビジョンはまちづくりの基本資料で、これを使っていろんな計画に反映していく。そういった意味で、すごく大事な目標数値だと理解している。町ではこれに近づけていくことが今大事である。そのためには、いろんな新規事業を取り入れながら、人口を増やしていく手段を講じていくことになると思う。

常任委員会 審査

総務産業厚生 常任委員会

■**洪水ハザードマップ**
 Q インターネットでもハザードマップを見られるようにして欲しい。拡大すると見えにくくなるので扱える形で載せて欲しい。
 A そのように対応したい。



■**りんごの里PRグッズ製作委託料**
 Q 事業の内容は。
 A 元高見盛、現東関親方のうちわを作成する予定となっている。

■**記念事業講演会**
 Q 時期はいつ頃を予定しているか。
 A 現在の案として、11月上旬を考えている。

Q 講演等を行うのか。
 A 誰を呼ぶかは未定だが、地名度が高い人を選んでトークショーなどを行うことを考えている。

■**顔出しパネル**
 Q 顔出しパネルで写真を撮って、家へ持って帰ったんだけどちよつと弱いと思う。例えば写真をSNSへ上げた人へふるさとセンターの商品をプレゼントなどすれば観光効果があると思うがいかがか。
 A 非常に興味深いアイデアを頂いたので、可能かどうかを含めて、持ち帰って課内で相談したい。



■**イルミネイト**
 Q 実行委員会の構成員は。
 A 板柳町観光物産協会、いたやなぎ地活プランニング、りんごワーク研究所、町である。

■**ふるさと納税プラン利用料**
 Q ふるさと納税プラン利用料とはどういふものか。
 A 現在ふるさとチョイスを利用してふるさと納税をPRしている。ふるさとチョイスのホームページにおいて、町のふるさと納税の返礼品をPRする部分で、サイトの利用料は寄附額の5%で計上している。

福祉建設文教 常任委員会

■舗装補修工事

Q 町にある県道や国道の穴が空いているところがある。町道ではない道路についての穴埋め等について、県に話をすれば対応してくれるのか。
 A 県道、国道については西北地域県民局で管理している。住民の方から連絡があれば、内容を地域整備課から県の担当者につないでい

る。県の担当者からいつやるなどの連絡はないが、対応していると思う。

Q 工事終了の確認は町でやっているか。県からの終了報告はあるのか。
 A 確認については町では行っていない。いつ実施する、終了したという連絡は県からはない。しかし、余りにも危険性の高い道路に關しては県道であろうが、町の作業員で補修をやる場合もある。



民生委員補充員などを導入することはできないか。協議会の中で話を聞いたり、提案することはできないか。
 A 民生委員協議会から状況を改めて聞いて、理事者に相談して考えていきたい。

■**板柳中学校グラウンド**
 Q 走り幅跳び用砂場移設工事の場所はどこになるか。
 A 中学校に任せる予定だが、まだ把握していない。

Q グラウンドが大分悪くなってきていると思うが、グラウンドを整備することは考えているか。
 A 今のところ検討していない。

Q せっかく中学校が新しくなるので、100メートルのコースだけでも整備できないものか。
 A 中学校と相談しながら検討したい。



■**民生委員**
 Q 基本的に各町内に1人というのが現状だと思う。町内によっては世帯数が少ないところと多いところが極端にあって、それを一人で担当するには無理が生じる町内も出ていると思う。世帯数が多い町内については、

予算特別委員会 総括質疑

令和2年度の各会計予算を審議するため、議員全員で構成する予算特別委員会（委員長・長内良蔵議員／副委員長・鈴木清孝議員）を設置し、3月24日・25日の2日間にわたり詳細に審議しました。数多くの質疑がありましたが、その一部を紹介します。

※令和2年度各会計予算の詳細については、広報いたやなぎ4月号に掲載されています。



◎ふるさと納税

■質問 松森俊逸委員

ふるさと納税の予算額が昨年度よりも400万円減の2,800万円になっている。どういつ予算方針か。

▲田邊税務会計課長

平成30年度の実績見込みが2,800万円だったので、実績見込み等を勘案して予算計上した。

■質問 松森俊逸委員

ふるさと納税の仕方が非常に簡潔になってワンストップでできるメリットがあるため、もっと積極的にやってみてほしい。

▲成田町長

ふるさとチョイスなどを活用して、もっといいものがないか検討したい。

◎郷土資料館

■質問 成田陽光委員

郷土資料館費の報酬12万2,000円について、この郷土資料館の運営委員の平均年齢は大体どのぐらいの構成になるのか。

▲三浦生涯学習課長

60代から80代、もう少しで90代になる方もいる。

■質問 成田陽光委員

現状で後継者をどうやって増やしていくかという考えがあればお聞きしたい。

▲三浦生涯学習課長

具体的な案はないが、これから育てていくための講

座や講義を実施していく方向で考えている。

◎若者夫婦定住応援事業

■質問 今浩一委員

新規事業だが内容は。

▲村上企画財政課長

転入して定住する若い夫婦世帯、40歳以下の夫婦を想定しており、住宅取得費用に對して、取得費用の5%、上限100万円、町内業者を利用した場合は6%、上限120万円を助成する補助金である。



◎老人保健福祉計画・介護保険事業計画

■質問 成田肇委員

老人保健福祉計画・介護保険事業計画見直し業務委託料の事業内容は。

▲芦田介護福祉課長

3年に1回、町でつくる計画で、来年度が見直しの年になっている。計画をつくるためのコンサル等委託料として453万2,000円計上している。介護保険事業計画の中で介護保険料等が決められる。

◎寄付

■質問 佐藤洋治委員

学校の部活などに一般の方から寄附される場合、税金の減免になるか。

▲田邊税務会計課長

市町村に對する寄付について、所得税を納めている対象の方や、税控除を受けられる対象の方の状況等によるが、所得税等の寄付控除に該当する。

◎クラブ活動費

■質問 佐藤洋治委員

備品購入費でクラブ活動費200万円とあるが、その使い道は。

▲對馬学務課長

吹奏楽部の楽器の購入費用である。



◎教育振興費

■質問 佐藤洋治委員

教育振興費が237万円減額されている理由は。

▲對馬学務課長

小幡、掛落林、牡丹森、柏木、横沢、飯田のバスの中学校通学費補助金が入っ

ていた。次年度からスクーリングバスを利用することになり、その分が減った。

◎りんごの里ゆるキャラグッズ製作委託料

■質問 今浩一委員

委託料61万6,000円の内容は。

▲村上企画財政課長

あぶりんのクリアファイル2,000枚とぬいぐるみを100個作る予定で、ぬいぐるみについては、出生のお祝いにプレゼントしたいと考えている。

◎水道

■質問 三戸玲子委員

給水戸数が4,831戸となっているが、町民のほとんどに給水されているのか。まだ簡易水道などを使っているところもあるのか。

▲楠美上下水道課長

給水戸数4,831戸の予定量については、令和2年1月末現在の数字を採用している。水道の普及率は97%で残り3%の方が水道に未加入状態である。

■質問 三戸玲子委員

世帯が4,831であるが、現在の水道料で現状維持するために試算をしているか。

▲楠美上下水道課長

平成27年度に作成した水

道事業基本計画によって、令和8年度までの老朽管の更新工事においては料金改定をせずに現状の現金収入等により実施できると試算されている。今現在としては令和8年度まではこのままの経営体力でやっていけると考えている。

◎キュービクル改修工事

■質問 今浩一委員

拡大施設キュービクル等改修工事288万9,000円計上されているが、バーベキュー広場のキュービクルを多くするのか。

▲葛西ふるさとセンター所長

コテージ、工芸館、青柳館、総合案内所とあり、そちらのキュービクルである。現在遮断器が故障していて、万が一工芸館やコテージ等の電気設備の点検をする場合、この遮断器が故障中であれば全て停電になるので、遮断器を直すための工事費を計上している。

◎りんご放任園処理対策事業

■質問 葛西幸男委員

りんご放任園処理対策事業補助金について、板柳町の放任園の件数は。

▲田澤産業振興課長

件数という正確な数字は今手元にはない。突発的に園主の方が耕作できないような状態のときのための予

算をお願いしている。昨年度は、3、4件ほど園地の消毒をこの補助事業によって行った実績がある。



◎看板製作委託料

■質問 今浩一委員

事業内容は。

▲大井総務課長

避難所であるという案内の看板を町内の各避難所に設置したいと考えていて、その委託料である。

◎子宝祝金

■質問 濱名康治委員

子宝祝金の内容は。

▲芦田介護福祉課長

第2子以降5万円、第3子以降10万円を、出生の際に町から支給している。

■質問 濱名康治委員

第1子から支給する考えはないのか。

▲成田町長

第2子、第3子の金額は動くかもしれないが、第1子から支給できるように、令和3年度の予算でできないか検討させる。

◎地域包括支援センター

■質問 佐藤文俊委員

どこに相談に行けばいいのか。

▲芦田介護福祉課長

相談業務については公民館の中にある地域包括支援センターに相談業務をお願いしている。



◎りんご病害虫マスター

■質問 工藤貢委員

委託先を教えてください。

▲田澤産業振興課長

県のりんご協会のほうで、りんご農家の方々、農業後継者の方々が勉強している。

■質問 工藤貢委員

毎年どのぐらいの方が養成に行っているか。

▲田澤産業振興課長

今回の予算については3名分を予定している。

◎会計年度任用職員

■質問 鈴木清孝副委員長

会計年度任用職員について、月額給から月給制になり、ベースになる部分については今までの分からアツプになっていると思うが、説明して欲しい。

▲大井総務課長

賃金の面について、給料表を定めていて、一般的な事務職員だと13万2,000円から13万6,100円である。今までの仕事をしていた実績等を加味して決定する。手当に関しては時間外手当、今までなかった期末手当を支給する。

◎中学校自転車置場解体

■質問 成田肇委員

解体しなければならぬだけ弱っているのか、それとも新しい校舎ができて、あの場所が不適切なのか。

▲對馬学務課長

駐輪場については鉄骨で

できているが、大分さびて、老朽化も進んでいる。危険な状態であるので、中学校新築に併せて解体したい。

◎新型コロナウイルス対策

■質問 鈴木清孝副委員長

今一般の方もマスクがなかなか手に入らない状況になっている。既決の予算、また新年度予算を使って、マスクを補充して職員や学校の教職員に支給すること考えられないか。

▲成田町長

新型コロナウイルスだけではなく、いろんな災害時に備えて備蓄しておくことは大変大事なことである。既存の予算の中で対応していきたいと思う。

◎中学校の空調設備

■質問 成田陽光委員

工事費用4,200万円について、詳しい説明をお願いしたい。

▲對馬学務課長

当初、各普通教室にエアコン2台で計画していたが、1台でも間に合うと設計事務所から話が来たので、各教室に1台ずつ設置し、ある程度の温度を超えた段階でスイッチを入れる形で進めていきたい。

一目で分かる審議結果

◆第1回臨時会

議案	結果
板柳町監査委員の選任につき同意を求めることについて	全員同意
青森県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び青森県市町村総合事務組合同規約の変更について	全員可決

○全会一致の議案

◆第1回定例会

議案	結果
町道の路線認定について	全員可決
板柳町外国語指導員等の報酬及び費用弁償に関する条例の全部改正について	全員可決
板柳町印鑑の登録及び証明に関する条例の一部改正について	全員可決
板柳町監査委員条例等の一部改正について	全員可決
板柳町職員定数条例の一部改正について	全員可決
板柳町職員のサービスの宣誓に関する条例の一部改正について	全員可決
板柳町議会議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例等の一部改正について	全員可決
板柳町報酬及び費用弁償条例の一部改正について	全員可決
板柳町営住宅管理条例の一部改正について	全員可決
令和元年度板柳町一般会計補正予算（第4号）	全員可決
令和元年度板柳町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）	全員可決
令和元年度板柳町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）	全員可決
令和元年度板柳町介護保険特別会計補正予算（第3号）	全員可決
令和元年度板柳町農業集落排水事業特別会計補正予算（第3号）	全員可決
令和元年度国民健康保険板柳中央病院事業会計補正予算（第3号）	全員可決
令和元年度板柳町水道事業会計補正予算（第2号）	全員可決
令和元年度板柳町公共下水道事業会計補正予算（第3号）	全員可決
令和2年度板柳町一般会計予算	全員可決
令和2年度板柳町国民健康保険事業特別会計予算	全員可決
令和2年度板柳町後期高齢者医療特別会計予算	全員可決
令和2年度板柳町介護保険特別会計予算	全員可決
令和2年度板柳町農業集落排水事業特別会計予算	全員可決
令和2年度国民健康保険板柳中央病院事業会計予算	全員可決
令和2年度板柳町水道事業会計予算	全員可決
令和2年度板柳町公共下水道事業会計予算	全員可決

○賛否の分かれた議案

議案	氏名	工藤 貢	濱名 康治	佐藤 文俊	鈴木 清孝	成田 陽光	松森 俊逸	今 浩一	葛西 幸男	長内 良蔵	成田 肇	三戸 玲子	結果
議案第58号 令和2年度板柳町一般会計予算に対する附帯決議について（議員発議第1号）		×	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	賛成8人 可決

○：賛成、×：反対 ※議長は採決に加わらない。

議員発議第1号の内容（発議者：今浩一議員）

議案第58号 令和2年度板柳町一般会計予算5款2項2目13節0130バーベキュー施設整備実施設計業務委託料については、「ふるさとセンターアクセス環境活性化計画」を議会と更なる協議を重ね合意形成を図ると共に、バーベキュー施設基本設計を提出後に執行すること。

附帯決議案に対する反対討論 成田肇議員 (公正会)



さきの2月25日開催の議員全員協議会においてその内容の説明を受けたところでもあると思います。

その内容は、当初の事業費を大幅に削減し、2,930万円まで縮小した事業費となっており、また運営収支計画においても毎年利益を見込んでおります。町当局から示された設置場所は、近くにトイレや駐車場、炭焼き施設があるほか、あずまやや水飲み場など休憩スペースもあり、この一帯を一体的に整備できる場所となっており、利用者の利便性を最優先に考えた場所だと考えております。

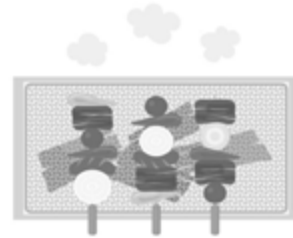
最後は町民の皆様方に一日も早くバーベキュー施設を利用してもらうために協調していく姿勢が大事だと考えております。

附帯決議案に対する賛成討論 鈴木清孝議員 (令政会)



この附帯決議に賛成の立場から討論いたします。

バーベキュー施設整備実施設計業務委託料につきましては、あくまでも利用者の利便性と安全性の確保の観点からも、設置位置につきましてはさらにもう一度熟慮すべきであるということから、賛成するものであります。



議会の動き（1月～3月）

開催日	会議等名	開催日	会議等名
1月	6日 議会だより編集特別委員会	3月	2日 福祉建設文教常任委員会協議会
	15日 西北津軽郡町議会議長会議・事務局長会議		3日 国民健康保険運営協議会
	〃 議会だより編集特別委員会		10日 議員全員協議会
	16日 町例月出納検査(監査)		〃 臨時会
	23日 議会だより編集特別委員会		〃 議会運営委員会(定例会案件)
2月	3日 板柳中学校改築特別委員会現場視察		〃 議案説明会
	12日 町例月出納検査(監査)		11日 町例月出納検査(監査)
	18日 弘前地区環境整備事務組合議会定例会		〃 議会運営委員会(定例会案件)
	〃 津軽広域連合議会定例会		16日 本会議(定例会日程、町長の提案理由等)
	〃 弘前地区消防事務組合議会定例会		18日 議員全員協議会
	19日 西北五広域福祉事務組合議会定例会		〃 本会議(一般質問・7人)
	21日 議員懇談会(改選後の顔合わせ)		23日 総務産業厚生常任委員会(所管事務調査)
	〃 議会運営委員会(臨時会案件)		〃 福祉建設文教常任委員会(所管事務調査)
	25日 議員全員協議会		24日 予算特別委員会
	26日 青森県町村議会議長会定期総会	25日 予算特別委員会	
		〃 本会議(委員長報告、採決、閉会)	
		27日 議員全員協議会	

議長あいさつ

今月号から新編集委員によるNEW議会だよりとなります。

新しいメンバーによってパワーアップされて編集されますが、今後も皆様に愛される町議会だよりを目指してほしいと願っています。今後の板柳町の更なる発展と町民の皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。

(議長 佐藤 洋治)

委員長あいさつ

この度、議会だより編集特別委員会委員長を拝命した成田陽光です。再びの着任で、以前より更なる、開かれた議会の一翼を担えるように努めてまいりたい所存です。住民の皆様により親しみやすい議会のためにも、紙面はもちろん、時代に対応した情報公開のあり方を模索していきたいと考えております。よろしくお願ひ致します。

(委員長 成田 陽光)

新議員

1 所属委員会 2 趣味



かさい ゆきお
葛西 幸男(いたや町)
①福祉建設文教常任委員会
②映画鑑賞



さんのへ れいこ
三戸 玲子(日新)
①総務産業厚生常任委員会
②レクリエーションダンス



くどう みつぐ
工藤 貢(滝井)
①福祉建設文教常任委員会
②ソフトボール



さとう ふみとし
佐藤 文俊(文京町)
①総務産業厚生常任委員会
②釣り



なりた ようこう
成田 陽光(牡丹森)
①総務産業厚生常任委員会
②旅行

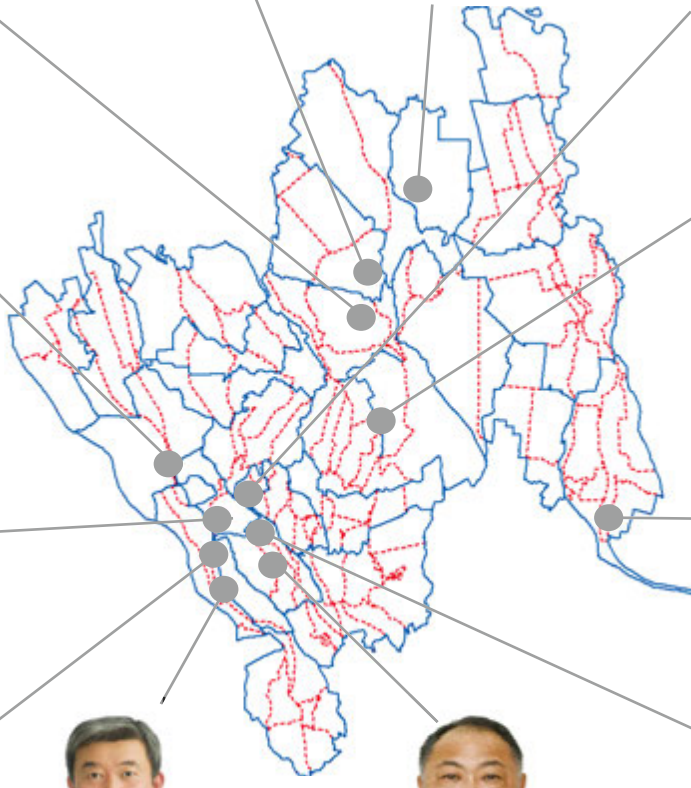


さとう ようじ
佐藤 洋治(柏木)
①総務産業厚生常任委員会
②釣り

〔議長〕

〔副議長〕

〔監査委員〕



おさない りょうぞう
長内 良蔵(五幾形)
①福祉建設文教常任委員会
②ウオーキング



なりた はじめ
成田 肇(大蔵町)
①総務産業厚生常任委員会
②ゲートボール



まつもり しゅんいつ
松森 俊逸(東雲町)
①福祉建設文教常任委員会
②本の立ち読み 料理



こん こういち
今 浩一(博労町)
①福祉建設文教常任委員会
②釣り



すずき きよたか
鈴木 清孝(田中錦町)
①福祉建設文教常任委員会
②読書



はまな やすはる
濱名 康治(太長)
①総務産業厚生常任委員会
②競走馬育成

編集後記

長い間、町にある板柳高校は、その歴史を終えようとしています。その中にも、将来の夢へ向かって努力する若人が沢山います。歴史の節目にいる事を忘れずに、元気に希望をもって過ごして頂きたいと思います。そんな君たちを応援します。頑張れ、若者。

(委員 今 浩一)

〔発行責任者〕

議長 佐藤 洋治

※第26号発行予定は8月14日頃です。議会だよりへのご意見・ご感想をお聞かせください。